

No. 53

# ハンドボール 5 (財) 日本ハンドボール協会公式記録用紙

No. (16名用)

A 岐阜県	熊本県	B
11	5-17 6-17	34
確認サイン		確認サイン
A 岐阜県	7m TC	B 熊本県

大会名	第67回国民体育大会 主3清流団体		
年月日	平成24年10月7日(日)	場所	下呂交流会館
種別	成年	男	国 回戦 第3回戦(準決勝) 決 リーグ

A 岐阜県	警告	退場	失点	チームタイムアウト	
				前半	後半
役員A 山川由加				10	07
役員B 都竹 穂				24	45
役員C 服部 美穂子				得点	
役員D 松坂 美穂				前半	後半
1 山下 孝子					
2 八重 由美				T	3
3 小田 泰穂子					
4 中村 愛子					
5 池田 瑞生					1
6 柴田 理紗				F	3
7 立野 楓					1
8 東 祥子					
9 志摩 愛子					1
10 岡崎 加奈子					1
11 小松 真理子					1
12 細谷 涼子					
合計	3	2	0	5	6

  

B 熊本県	警告	退場	失点	チームタイムアウト	
				前半	後半
役員A 岡崎 希代					
役員B 重 康寛					
役員C 高橋 正憲				得点	
役員D 橋本 洋一郎				前半	後半
1 藤岡 力加					
2 藤井 紫緒				正	13
3 前田 泰美				T	2
4 津田 智美				T	3
5 若 加理奈					
6 東洋 裕子				T	4
7 勝 智恵					2
8 石立 真悠子					1
9 喜田 吉田 薫				正	4
10 柏原 由衣				T	2
11 永田 (お)				T	3
12 山中 絵里奈					
合計	2	4	0	11	19

前半				後半			
A	結果	得点	時間	B	結果	得点	時間
5 W	0	31				1	00
	1	56	1	2	6	6	1
5 S	2	54	2	0	2	6	2
	3	34	W	5		3	06
	4	21	3	1		4	06
	5	24	4	2		5	23
	5	38	W	1		1	11
5	1	5	58			8	31
11	2	7	52		2	2	9
	8	56	5	6		9	53
	10	03	6	6	2	7	10
①	10	09			6	8	11
	11	53	1	0	2		11
	13	09	8	7			13
9	3	14	30		10	0	9
2	4	15	27		2	2	16
6 W	16	18	9	4		18	06
	17	13	10	2		19	35
3 W	18	16	11	0	2		20
2	5	20	54		6	0	10
	27	10	12	2		21	31
	23	24	13	11		25	15
	24	43	14	8		26	35
①	24	45			7	0	11
6 S	26	23	15	2		28	30
	27	29	16	3		29	58
	28	26	17	3		29	58

特記事項

① (主催者用) 日本ハンドボール協会版-不許複製

タイムキーパー 山田 駿介 スコアラー 田代 豊

マッシュバイザー サイン 主 藤 康夫 審判員 サイン 中野 敏也 審判員 サイン 藤 友明

# ハンドボール 結果報告 No.52

大会名	第67回 国民体育大会 ハンドボール競技				
競技日	10月7日(日)	試合記号	E0	回戦	準々決勝
種別	成年女子	会場	下呂市交流会館		
A(都道府県名)			B(都道府県名)		
岐阜県			熊本県		
得点合計	小計		小計	得点合計	
11	5	前半	17	34	
	6	後半	17		
		第1延長(前半)			
		第1延長(後半)			
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
		7mTC			

## 【 戦 評 】

記載者氏名 川瀬 善孝

準々決勝、日本リーグトップチームのメンバーで固めた熊本県に対して、国体開催県岐阜県がどう食い下がるか楽しみなカードとなった。場内、岐阜県の応援一色の中、熊本県のスローオフで開始。先手を取ったのは、熊本県2番藤井の鮮やかなロングシュート、11番永田のポストシュートなどで4点先取。岐阜県は6分、5番池之端のポストシュートが1点目、11番小松のサイドシュートで2点目、熊本県6番東濱に2連続得点を許し、熊本の固いディフェンスを崩せない岐阜県はタイムアウトを要求。岐阜県のゴールキーパー、網谷の再三の好セーブが光ったが、熊本県はパワフルで多彩な攻撃で確実に加点し、岐阜県を17対5と引きはなし、前半を終了した。

後半の立ち上がり、熊本県6番東濱のカットインシュートで先手を取るが、岐阜県は6番柴田がロングシュートを決め反撃する。さらに、ポストプレーから7mスローのチャンスを得たが、熊本県のゴールキーパー藤間の好セーブに阻まれ、波にのることができなかった。その後、熊本県は一気に6連続得点し、差を広げた。何とか開催県の意地を見せたい岐阜県は、2番八重のサイドシュート、6番柴田の速攻で反撃。熊本県2番藤井、6番東濱のロングシュートに対応する為、ディフェンスシフトを5-1から4-2に変えたが、逆にディフェンスの裏をついたポストプレーやサイドプレーで、さらに加点された。34対11と熊本県の大差の勝利であった。地力に勝る熊本県に対し、地元の声援にこたえようと最後まで粘り強くプレーした岐阜県選手の健闘が光った。